

# 2019 AUTOBACS SUPER GT 第3戦 SUZUKA RACE REPORT



## CHALLENGE OF SUZUKA



この活動は下記のパートナー企業様に支えられています





# SUPER GTについて

- ・ スーパーフォーミュラと並び国内最高峰の自動車レースである
- ・ その注目度から国内外の様々な自動車メーカーが参加している
- ・ クラスはGT500とGT300の2種類がある
- ・ 予選はノックアウト方式でQ1\_15分間行い、GT500クラスは上位8位、GT300クラスは、上位16位以内に入賞したチームが、Q2\_10分間走行して決勝スタートグリッドを決定する
- ・ 決勝が250km~500kmの距離を、2つのクラス車両が同時にレースを行う
- ・ 両クラスの速度差から徐々に混走状態となり、コースの所々で抜きつ抜かれつの争いが展開されるレースである

## NISSAN MECHANIC CHALLENGE

日産自動車 × 日産・自動車大学校 × KONDO Racing



### NISSAN MECHANIC CHALLENGEとは?

学生、販売会社、KONDO Racingが一丸となり、車両の整備やホスピタリティ、イベント準備等を協力して行い、1つのレースを完成させる新たなプロジェクトです

# レース結果

## 予選結果

5月25日(土) 晴れ 気温26.6°C

岡山、富士戦は悪天候でセーフティカーの導入やアクシデントが続く大荒れのレースでした。快晴に恵まれた予選では学生は期待を募らせました。

しかし、タイヤを温めている際に他車トラブルで赤旗が振られ、レースは一時中断。その後再開されましたが、タイヤのウォームアップが途中のままタイムアタックに挑まなければならず苦戦しました。結果は21位となり、決勝では後方からのスタートとなりました。

| 順位 | No. | Car/Team                                | Driver                             | Q1Time   |
|----|-----|---|------------------------------------|----------|
| 21 | 56  | リアライズ 日産自動車<br>大学校 GT-R<br>KONDO RACING | Kazuki Hiramine<br>Sacha Fenestraz | 1'59.684 |

## 決勝結果

5月26日(日) 曇り 気温31.2°C

レースは後方からのスタート。序盤、56号車は追い抜きが難しいといわれる鈴鹿で、21位から10位まで怒涛の追い上げを見せてくれました。

しかし走行中トラブルに巻き込まれてしまい、予定外のピットインをしてタイヤを交換しました。その結果順位が落ちてしまい、18位でレースは終了しました。

他車よりもラップタイムが良く順位を上げていたのもあり、1回余分なタイヤ交換でこの最終順位はとてめ悔しい結果となりました。汗だくになりながらPIT内で応援していた学生も悔しそうです。

けれども、車の戦闘力は高く次戦では挽回すると信じています。

| 順位 | No. | Car/Team                                | Driver                             | Time        |
|----|-----|---|------------------------------------|-------------|
| 1  | 96  | K-tunes RC F GT3<br>K-tunes Recing      | Morio Nitta<br>Sena Sakaguchi      | 1:48'35.123 |
| 2  | 5   | ADVICS MACHSYAKEN MC86<br>TEAM MACH     | Natsu Sakaguchi<br>Yuya Hiraki     | 1:48'58.128 |
| 3  | 61  | SUBARU BRZ R&D SPORT<br>R&D SPORT       | Takuto Iguchi<br>Hideki Yamauchi   | 1:48'59.062 |
| 18 | 56  | リアライズ 日産自動車<br>大学校 GT-R<br>KONDO RACING | Kazuki Hiramine<br>Sacha Fenestraz | 1LAP        |

# 学生活動内容

学生スタッフは主に4つの作業を担当します。

## 1. テクニカルスタッフ

学生が班に分かれて時間別で作業しました。Pit内ではタイヤ交換、アライメント準備、車両移動、ピット掃除、ピットウォークの手伝いを行いました。スタッフ活動のメイン作業です。憧れのレースカーに触れることができ、担当学生は目を輝かせていました。



## 2. マネジメントスタッフ

スポンサー様へお飲み物やお弁当をお渡ししたり、接客応対するホスピタリティ活動を行ないました。テクニカルスタッフ、マネジメントスタッフと学生はローテーションを組み、交代で行っています。このように我々が、こうしてレースに携わることが出来るのは多くの方々に支えられているためです。お客さまをおもてなしする為に、事前に練習をしっかりと行い、レース当日に挑んでいます。



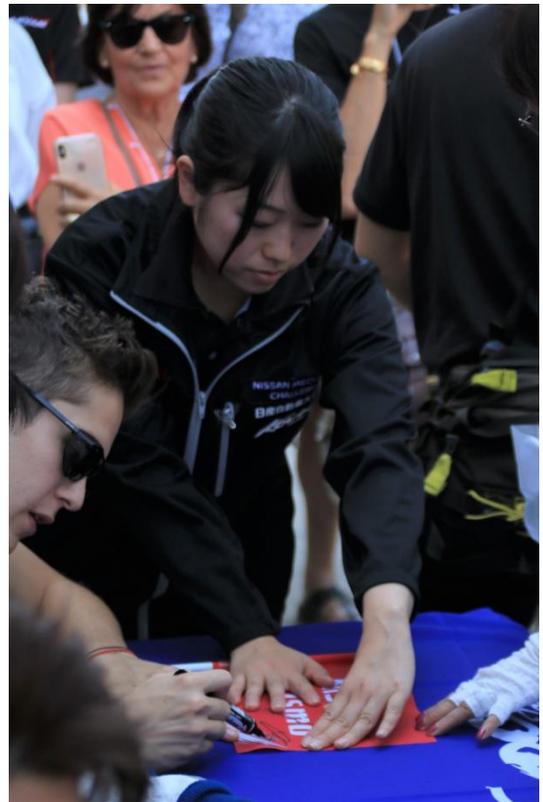
## 活動してみた学生の感想

- ・自分から行動することがやりにがいに繋がった。
- ・改めて日産という名前を背負って、行動することの重要さを知ることができた。
- ・日に日に緊張感が高まっていくのを感じた。  
また班のスケジュールも忙しくなり、班員の疲れが溜まっているように感じた。
- ・チームワークを重視することで、何倍も効率よく作業を進めることができた。

# 学生生活動内容

## 3. ピットマネージャー

ヘルメットや装備品の用意、ドライバー専用ドリンクの用意、リザルトや公式通知のチェック、走行ドライバー申告手続き等、主にドライバーさんのサポートをする役割です。ピットウォークの準備や、ピットウォーク時のドライバーサイン会のお手伝いも行いました。仕事の殆どをピットで行い、ドライバーに最も近いポジションで活躍します。



## 4. 広報

学生の活動や、チームの様子を撮影します。それらの素材を使用し、活動のレポート作成を行ない、皆さんへ情報発信をしています。テクニカルスタッフのような時間別の行動は殆ど無く、常に動き回って作業し、予定変更などの臨機応変な対応が出来る力が必要です。各種撮影機材の知識や文章力、編集能力を必要とします。



# ドライバーインタビュー

お忙しい中、ドライバーのお二人にお時間を頂き、インタビューをさせていただきました。

平峰選手、サツシャ選手  
ありがとうございました！



**Q. 今回の鈴鹿では今までの2戦と比較して良い天候に恵まれたので、路面コンディションが大きく異なると思われます。そこで、レースに向けて注意しようと考えている点などがあれば教えて頂けないでしょうか。**

平峰選手 : 特に注意しなければいけないのはタイヤの扱いです。路面温度が高くなるとタイヤにとって厳しくなるため、今まで以上にタイヤに注意して走る必要があります。

サツシャ選手 : 他のコースと比較して鈴鹿の路面はタイヤにとって厳しいため、タイヤに与える影響も大きくなるのでタイヤの状態管理が重要になってくる。

**Q. 岡山と富士のコースと比較した場合、鈴鹿のコースはどの様な点が難しいと考えますか？**

平峰選手 : 他のコースと比較して鈴鹿のコースで難しいと感じる点は、一つのコーナーでミスをするとその後のコーナーのタイムロスに繋がることです。

サツシャ選手 : 鈴鹿のコースは岡山や富士に比べて、本当にテクニカルなコースで、ミスなく一周走りきることが難しいサーキットです。

●ドライバーの視点からコメントをいただきました。タイヤのマネージメントに気を遣っている事。そして鈴鹿というコース攻略の難しさが分かりました。観戦する立場からは分からないことが、沢山有るのだと思いました。

# 学生スタッフ インタビュー

## PITマネージャー 福井さん(京都校)

Q.学生PITマネージャーの仕事を希望したきっかけはなんですか

A.カートレースでドライバーのサポートをしていました。「SUPER GTでドライバーのサポートに関係する仕事してみたい！チームがどんな風に動いているかを、間近で見たい」と思ったからです。

Q.ドライバーさんは、フリー走行時と本戦の時でどのような違いがありましたか

A.フリー走行の時はリラックスしている感じがありましたが、本戦になると2人ともピリッとした雰囲気で見つきが変わっていました。プロのドライバーはオン、オフのメリハリがしっかりしていて、学生とは比べられない集中力を持っている事に気がきました。



## 学生広報リーダー 西田さん(愛知校)

Q.広報をしていて楽しい場面は？

A.主体的に行動計画を立てて活動するため、タイトなスケジュールで取材が行われたり、急遽予定を変更することが多く、臨機応変さが求められます。状況に適應してしっかり取材ができたときは嬉しかったです。他にも、ドライバーさんと話す機会もあって貴重な体験をさせて頂きました。

Q.第2戦テクマネと第3戦広報をやってどうでしたか？

A.テクマネでのピット作業では勉強したことに繋がる部分が多く楽しかったです。またKONDO Racingさんとのお話や、マネジメントでの接客で就職など将来に活かせる経験も多くさせて頂きました。

広報は、様々な方をお願いして取材したり、情報の収集が欠かせません。コミュニケーションをしっかり取って信頼関係を得て初めて成り立つものだと思います。正直、広報は楽な仕事だと思って参加しましたが、仕事が難しく、パソコンでの作業や文章力が問われます。状況によっては、大変な役割かもしれませんが、達成感が一番感じる事ができました。



# 愛知校 松川校長インタビュー



Q.SUPER GTに参加した感想を教えてください

A スーパー耐久レースに引き続き、SUPER GTにおいても、大変多くの方々からのご支援とご理解のもとで、この活動が支えられていることをあらため実感しました。スポンサーの皆様をはじめ、「レースをとおした人財育成プロジェクト」に、ご賛同頂き大変感謝しています。

学生の皆さんも、この貴重な体験や経験が出来るのは数多くの皆様からのご支援がある事を忘れずに、感謝の気持ちを大切にしてほしい。

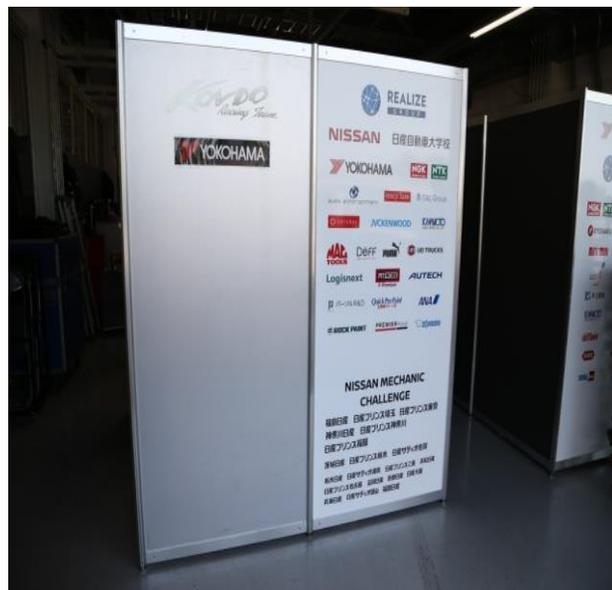
SUPER GT参戦から始った日産販売会社のTSの皆さんとの交流は、学生にとって大きな刺激になっていました。将来の目標やメカニックとしての目指す姿が、目の前にいるTSの皆さんを通して、より具体的になったのではないかと思います。

また、国内最高峰と言われるSUPER GTにおいて、勝つことの難しさも学生の皆さんは感じたのではないのでしょうか。

この活動のコンセプトに、「チャレンジ」、「最後まであきらめない」があります。言葉のとおり、この想いを具現化して、引き続きチーム一丸となって挑み続けていきたいと思えます。

Q. 学生にはSUPER GTの経験を重ねていくうえで、どんなことを期待していますか

- A この貴重な経験を一過性にするのではなく、今後の学校生活に活かして欲しいと思っています。
- また、今回の活動で、達成できたこと、できなかったこと、何故できなかったのか、次は何をするべきなのかをしっかりと振り返りをしてほしい。それを、来年新たに参加する後輩たちに、先輩となる学生の皆さんから伝えてください。
- 学校は、学生の皆さんの「自主性・主体性」に大きく期待しています。学生の皆さん、一人ひとりが主役となって、この「NISSAN MECHANIC CHALLENGE」を更に素晴らしい活動にしてほしいと考えています。



# 広報所感



最高気温が30℃を超えたこともあり、5月とは思えない暑さでした。体調に注意しながら、スタッフ学生は一生懸命に自分のやるべき仕事をこなしていました。空き時間は2校での開催ということもあり、学校の垣根を越えて、コミュニケーションを取ることで色々な情報を共有することができました。初めて会う人たちと話をすることで、人と人との出会いがとても大切だと気付きました。

初めての人に話しかけるのは勇気が必要でした。考えるより行動することが大切だと思い、KONDO Racingのスタッフ、販売会社のテクニカルスタッフの方に、私から積極的に話しかけてみると、意外と簡単に打ち解けることができました。その甲斐もありインタビューやコメントをスムーズに頂く事が出来ました。案ずるより産むが易しとはこのことでした。

広報活動では情報の収集が重要になりますが、仲間を増やすことで多方面から情報を手に入れることができました。人脈は宝物だと痛感しました。学校や立場が違ってもレースに勝つという目的は同じで、みんなが協力している姿は一体感がありました。スタッフとして参加しなければ理解できないことだと思います。

「コミュニケーション」は現代社会で必要不可欠なスキルと学校で教えられています。今まで、頭では理解していても行動に移すことが上手くできずにいました。「失敗を恐れずにチャレンジすることで分かる事がある」と学びました。行動せずに言い訳をしていた頃から「成長した！」と感じました。この活動に参加してたくさんの方に気付きました。そして多くのことを学びました。この活動に多くの学生達が、チャレンジする事で新しいことを理解して成長してほしいと思いました。

以上